

弘法大師御傳記 七

597
7



八千
597
7



弘法大師の傳記卷之第七

目録

三輪入道ミヅノノミチノノリノ事
 帝ミケノ表ウラニシテシテシテシテシテシテノ事
 丹生明神ニウノミヤノミコノ事
 忍ニウノ事ノ事ノ事
 三輪ミヅノノ事
 大塔オホタノ事

六十



我からん建立のありき...
 ありき也。我らん地やありき...
 けり。我ら山の大蛇...
 蛇とありき。...
 あり。山は...
 り。一水は...
 そびえ。...
 伊勢郡の...
 始。...
 とらからん...

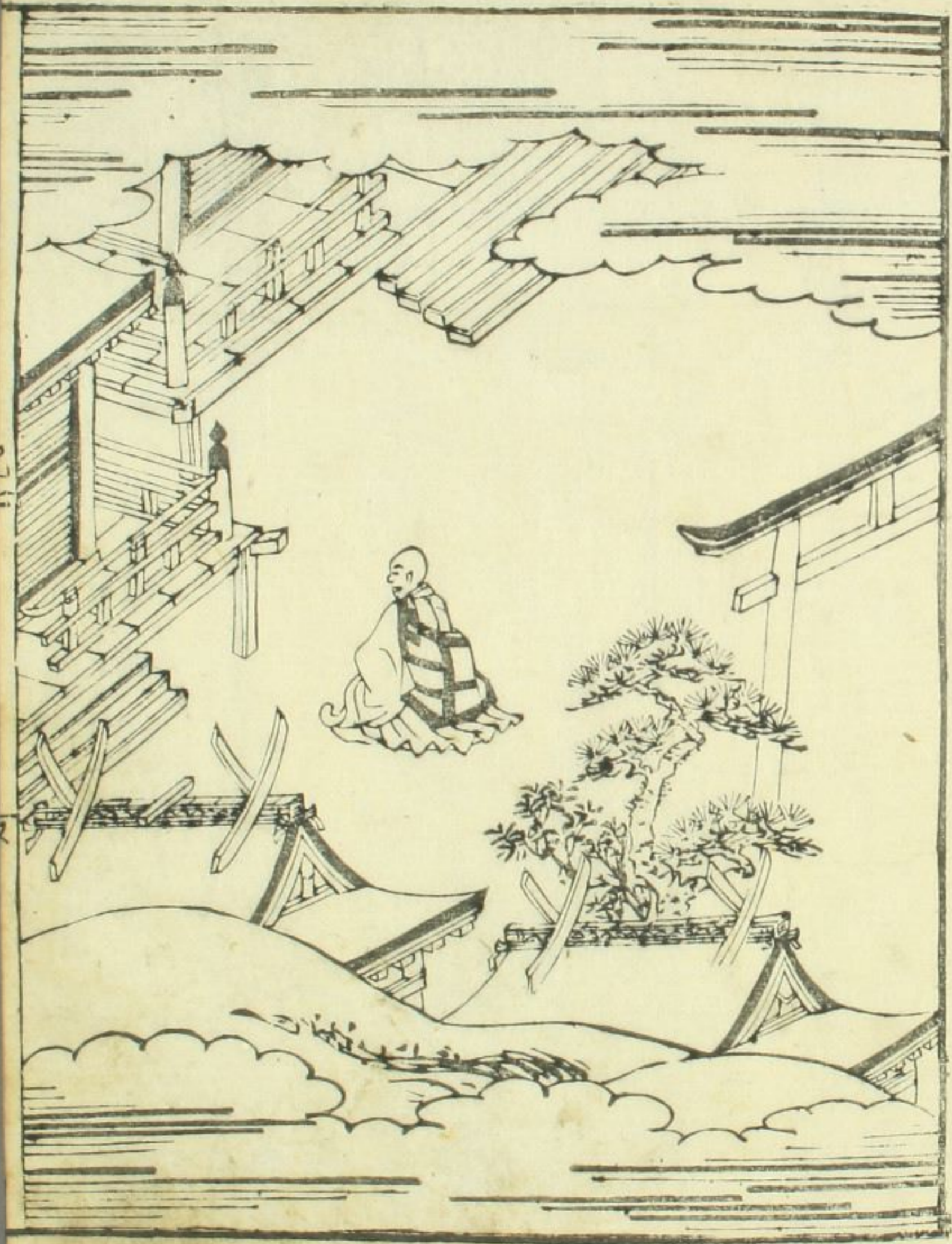
大布師の川



そむらゝのわらゝのどしとあゝ。紀伊の
身じきゆい。紀の川にわらゝよきあゝの
政所まんどころの意いをを候かんとれありとて山さん登やとらんめが
終はふとよかのやまとのまをてわらゝと乃川
つぎ。黒くろ白しろのいぬいぬもあゝのであり
て。空くう海かいとてあゝとてまらりけり。つよ
くまのり。まをり。まのあゝとあゝを
しとやあゝ。まのかり。まのあゝとあゝを
乃ひりき津つ乃わらゝよとてまらりけり。つよ
つよとてあゝとて。まのあゝとあゝを
あゝとてあゝとて。まのあゝとあゝを
あゝとてあゝとて。まのあゝとあゝを

色まらわらあり。虎そびえて。掃息興と。
よめと。字来よのう。たたらま。地を。漢よ
て。つる。妙業と。おん。ぎれと。す。あつら。他。産
よ。つる。輪鉄と。つて。帯と。なり。日。月。地。し
出。を。寝。ま。あ。の。あ。よ。つ。さ。ぬ。ま。こ。こ。に。他。産
産。乃。具。地。佛。は。海。乃。聖。徳。お。れ。よ。と。く。あ
形。は。あ。じ。と。わ。り。あ。つ。て。つ。そ。ぶ。え。ん。を。り。養
し。た。の。ん。と。山。下。あ。つ。て。つ。ま。と。海。の。か。つ。大。い
つ。ら。あ。つ。つ。を。ら。ぬ。さ。と。勢。よ。の。わ。り。あ。つ
弘。仁。七。の。月。は。表。と。と。ま。つ。り。て。げ。あ。つ。と
して。入。定。の。地。と。け。つ。を。た。ま。あ。ひ。さ。り。初。終

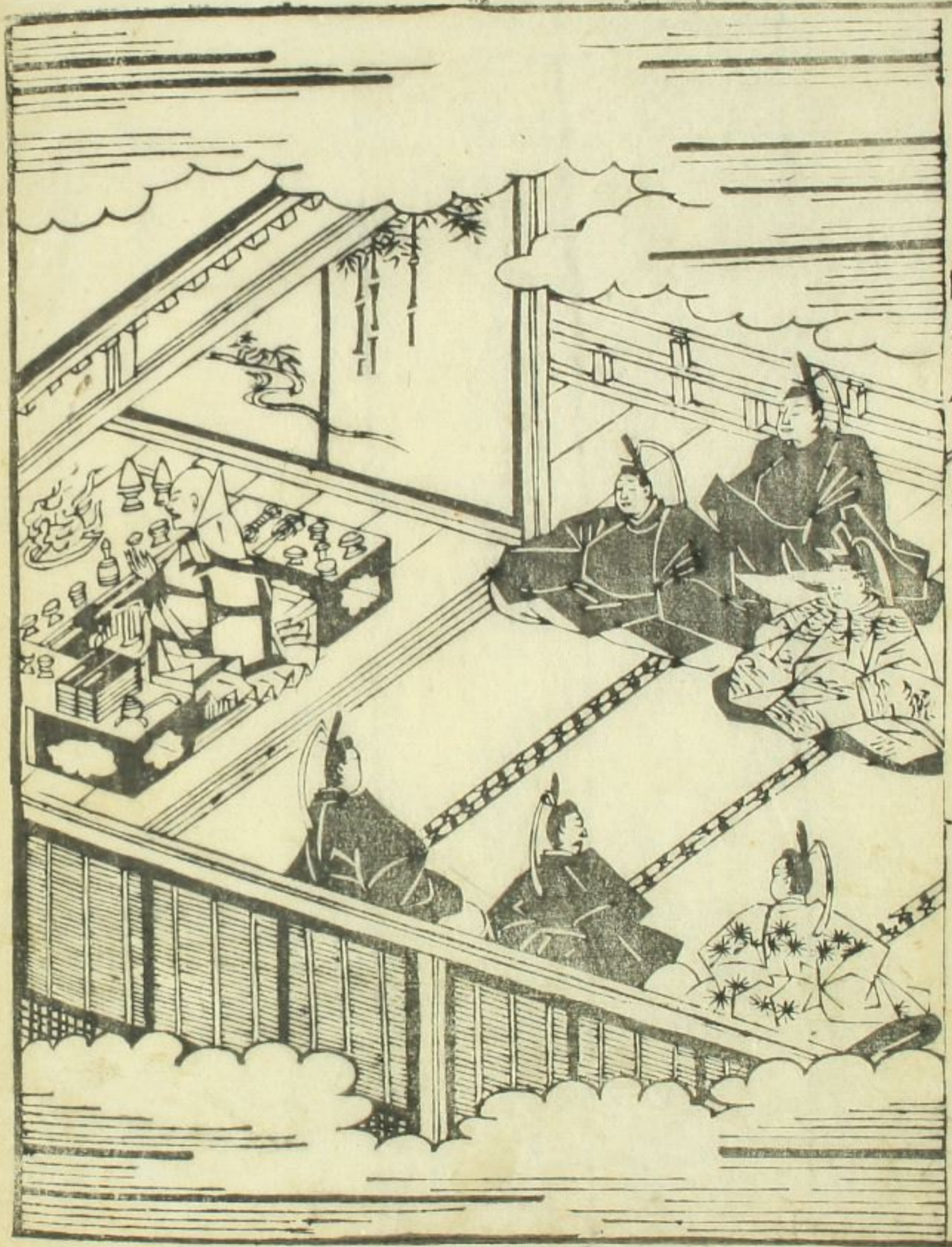
そ。こ。わ。り。あ。つ。して。つ。そ。ぶ。え。ん。の。地。り。あ。つ
つ。ま。と。し。と。は。井。よ。一。あ。つ。乃。草。産。鉄
ひ。を。つ。を。た。ま。あ。つ。と。け。あ。つ。つ。う。い。あ
ふ。つ。山。海。乃。わ。り。つ。つ。一。町。と。ら。乃。海。わ
山。丹。生。天。明。神。乃。や。ら。あ。つ。の。海。の。あ。ま
の。つ。と。と。こ。ら。れ。あり。を。海。け。と。こ。ら。よ。一。宿
あ。つ。ま。あ。つ。天。の。神。の。つ。つ。と。ん。て。の。つ。ま
む。け。の。は。あ。の。神。の。威。徳。と。の。つ。む。ま。い
さ。の。つ。ま。あ。つ。つ。と。こ。ら。あ。つ。た。ま。あ。つ。あ。つ
い。つ。い。あ。つ。弟。子。け。つ。と。ん。あ。つ。つ。つ。合。國。會
命。あ。つ。万。年。断。と。と。つ。つ。あ。つ。南。海。派。系



ぎり。おはやまのやまに。さかぎりのひがし。やま
 のくんとさくひ。あは。無^{きん}神^ん山^{さん}乃^の若^{わか}とさくひ
 祿^{ろく}ぐちくちとわとさくひ。まうりおぐちくち
 ちんぐうのあうりとあ。とさくひとさくひ
 へ

大正十一年

四



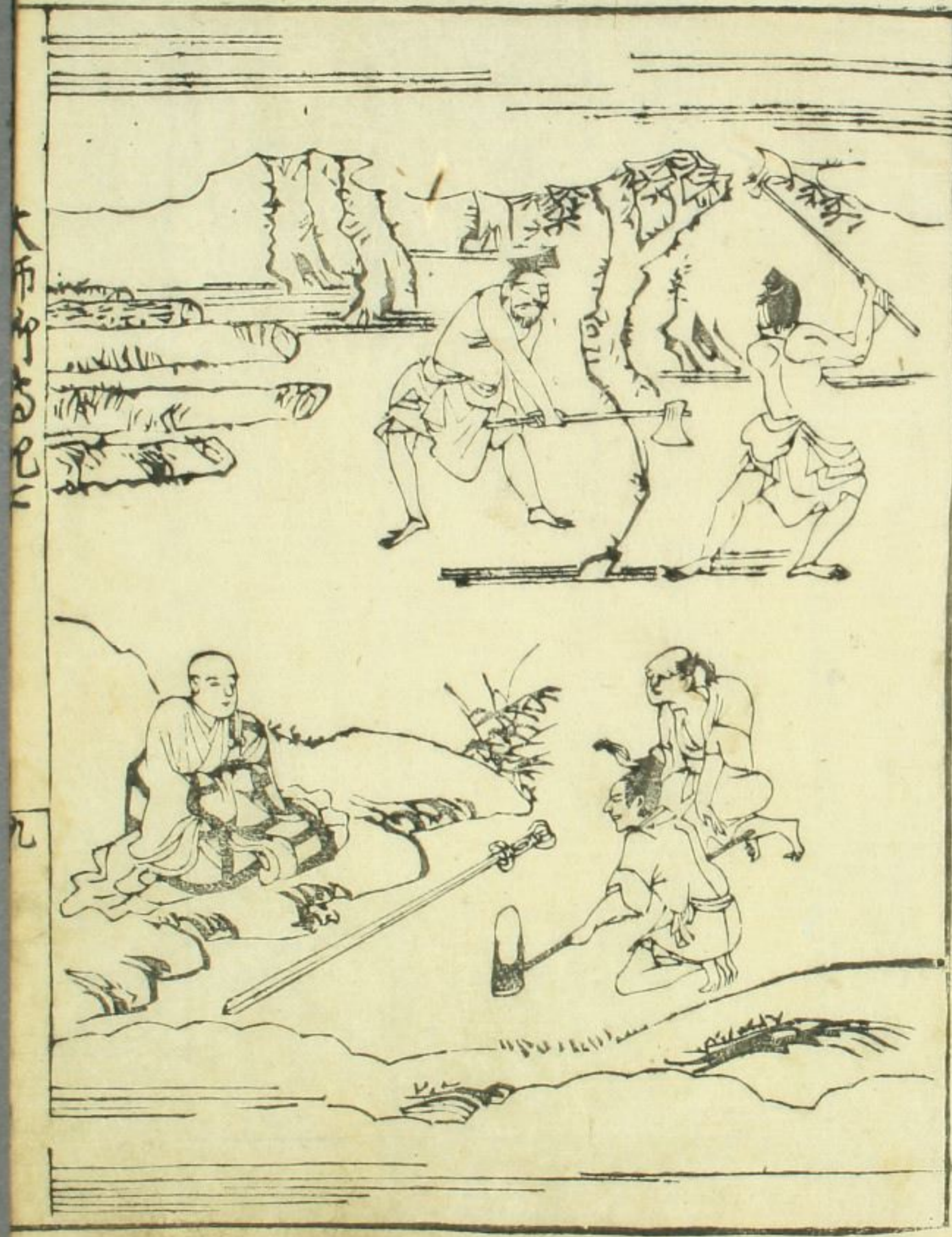
大和やあはれ

物言とらぬ。一天下の人のよしをのこしあ
 りてくたしといふやまといふるを程よる海を
 山は物言といふ建きまといふとのけ程をふた切
 ありきれば山はたの程まはた師よまもせ給ひて
 況よまの敷地とありぬ色いすまやうに常程
 のまると志給りんよ。程う言といりん志のわんかれ
 と言夫の下のまあはれといふまあはれいぞりあ
 はまをいなるまういそ。富養といふあひかりそ
 の行もひさの程程の程よ准じろよ。そんり地
 もいそと程程ようろ。今行もりくとあまの法
 為下りちくはあまのわらう。わのためよ。あれと

大和やあはれ

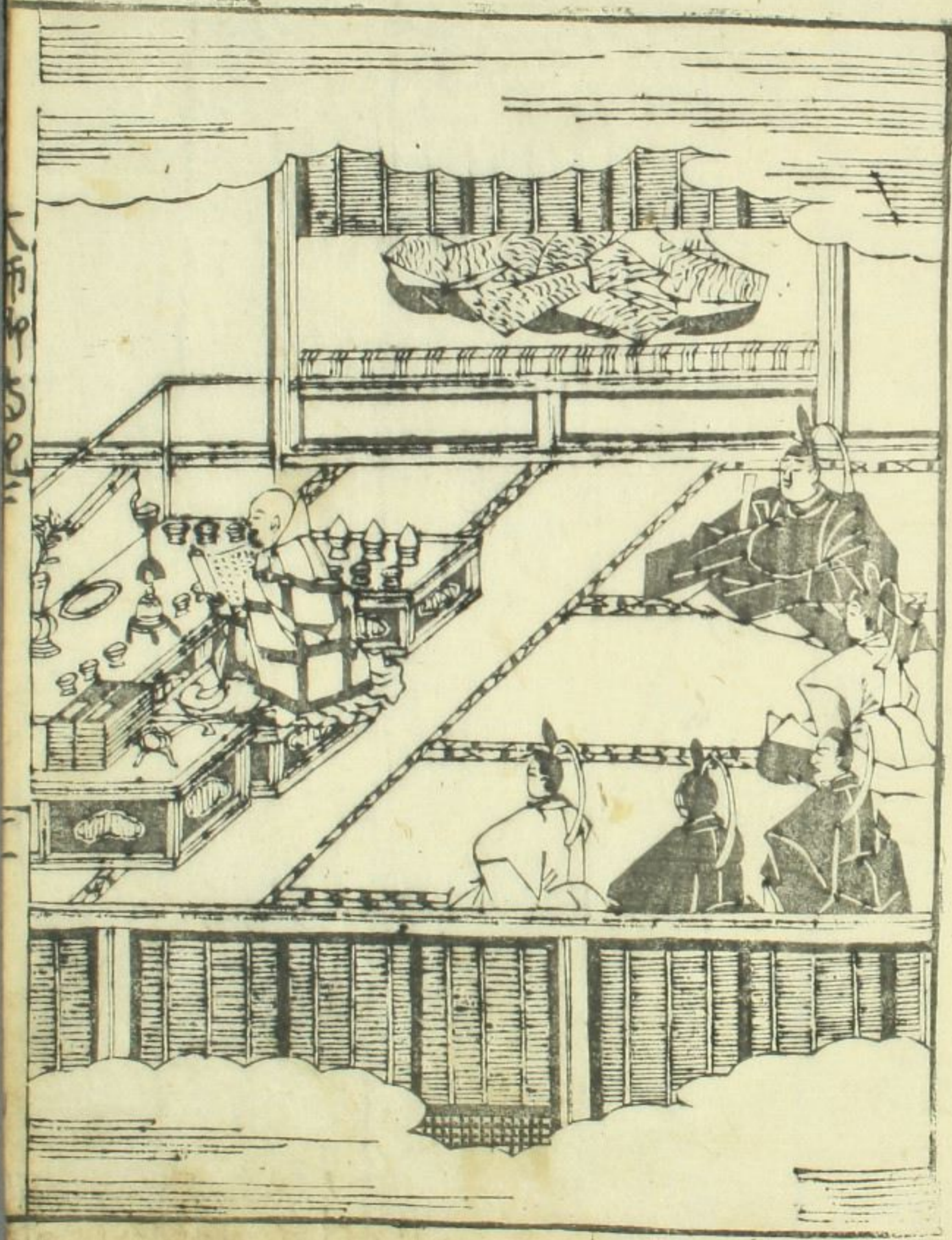
ふ本節をとりたつてて修練一説と建てる
 へんりや也。此等敷るふりあひまれの初件
 こかりあしての神お侍の上よおなへてはる
 の中府とくしてさふ。その儀式あこそうありし
 を海よりあひまむく。中府とくしてはる
 かのよはれまむして地とくしてはる。徳本とく
 とはるよあへおる。さむりまゆり。こた
 きまむらうり校よりあへくひらりあひま
 たりあねとあわ。さむりあへくひらりあひま
 元和元年よ大庭の列の津まて校とく
 ひ。とこあつと地よさむりまゆり。この松乃校

ようつとあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 かしこあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 地なるまあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 くらん。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 こが。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 神乃志あへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 はず。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 と目。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 けら。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 くを。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま
 細。さむりあへくひらりあひま。さむりあへくひらりあひま



林
竹
山
石
水

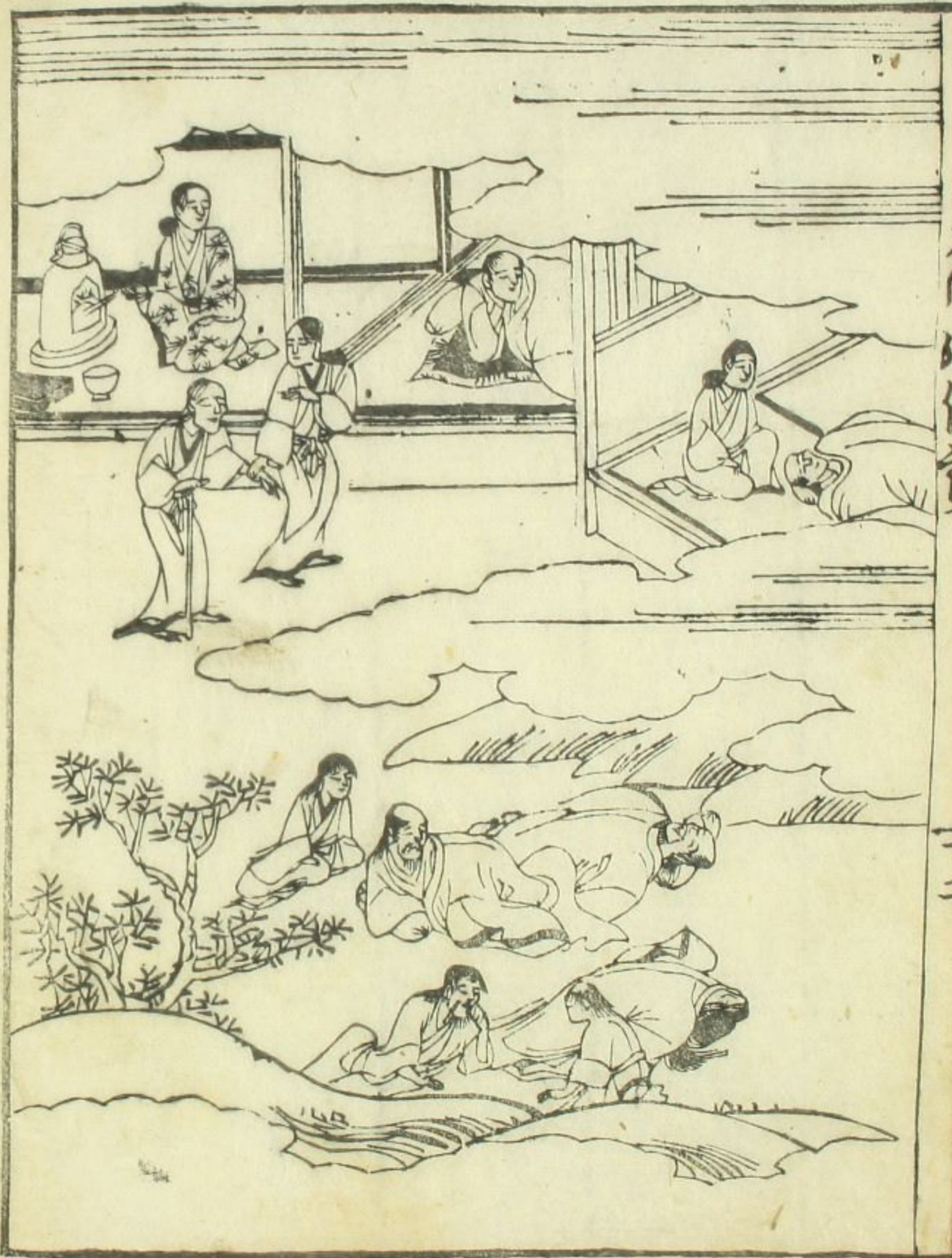
七



大徳寺
あんなに
たきし
事
ま

さて大帥はうらや一帯のありこゝ威統
 萬邦一ちよびまじ法統乃こゝをその
 たりはさるはよみんてらまひまたり
 畧来くらまゆり會んて目光のりこ
 ふぐこゝのふあゝあゝははわらゝも
 されぬすゝあゝいあゝこゝはつゝこゝ
 一。是後ほごそつありこゝに書あゝ
 びり一沙流まきの味全雜係よ現しゆ
 神志とらあひて悪徳とやぢりこゝ
 いま又や海の馬基末城よ統ち一は
 そゝの昔のあんとととこゝいあゝい

何しありこゝも。傍蓋られはあゝ
 ざらや。それすかりら果山らやう
 一乃まをのべて帯一まちんぐうの
 ありらぎ一と帯一なまゆありま
 指作と練一なまゆ海一はま
 ありまをれ

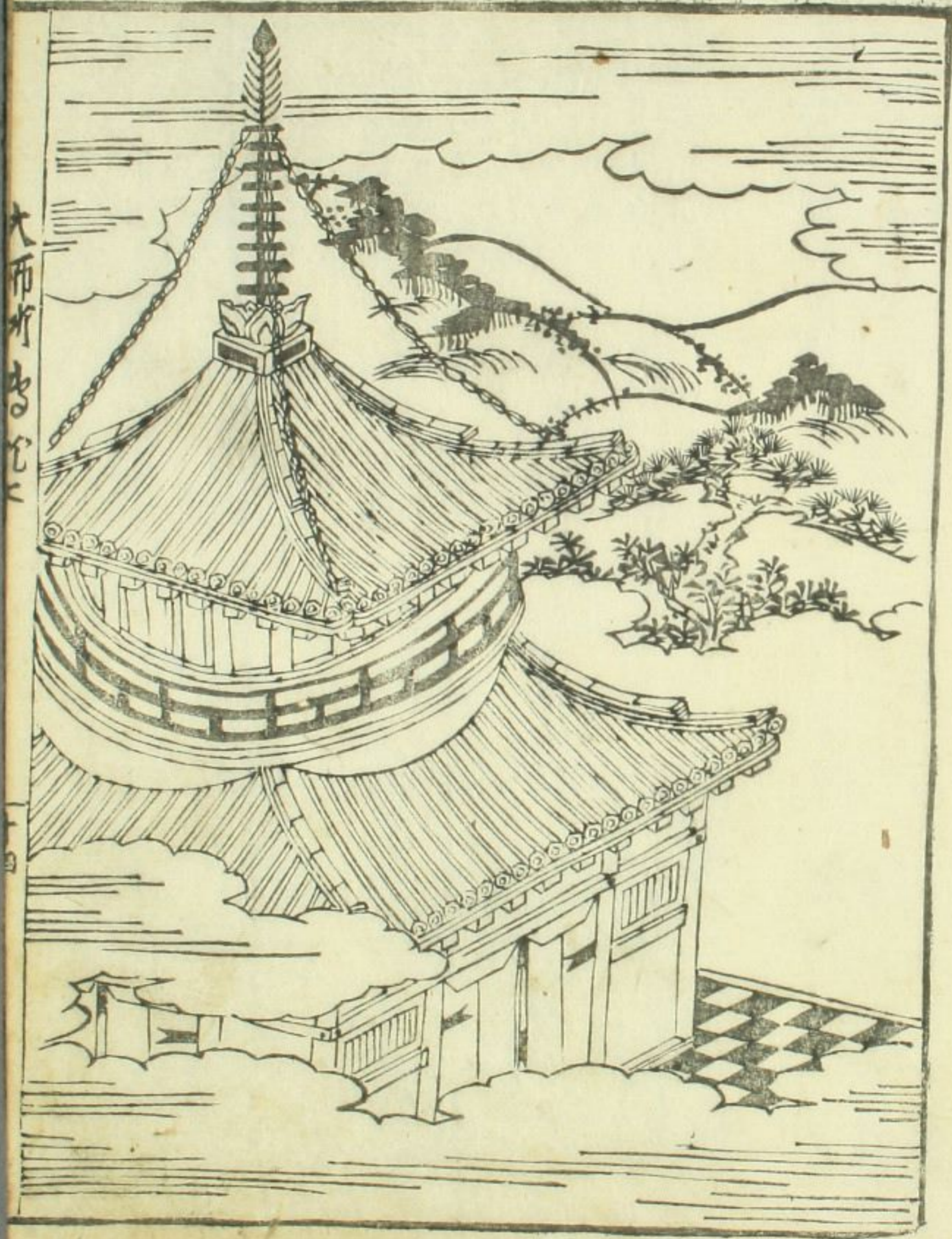


抄より聖山よりくりぬひくぐの南を北
 橋とく川りして一基乃塔橋とてんとお
 かり名知織と十方りともてと名を雲
 りのぞまの勢あひつわにちまといれん
 橋より乃花橋とて。此金見んぐさく
 像の住教とくつくりひ多美乃塔一基
 とてそをゆかるとすたぬあり。一層のつ
 かのそものうらふらとてそを九輪乃うざり
 八重乃がくたわざやうあり。そ中よ一お
 の田佛八尺み寸乃田善と安を一え
 ぶつり佛家僧庵つくとあぶらとては

大和の佛家

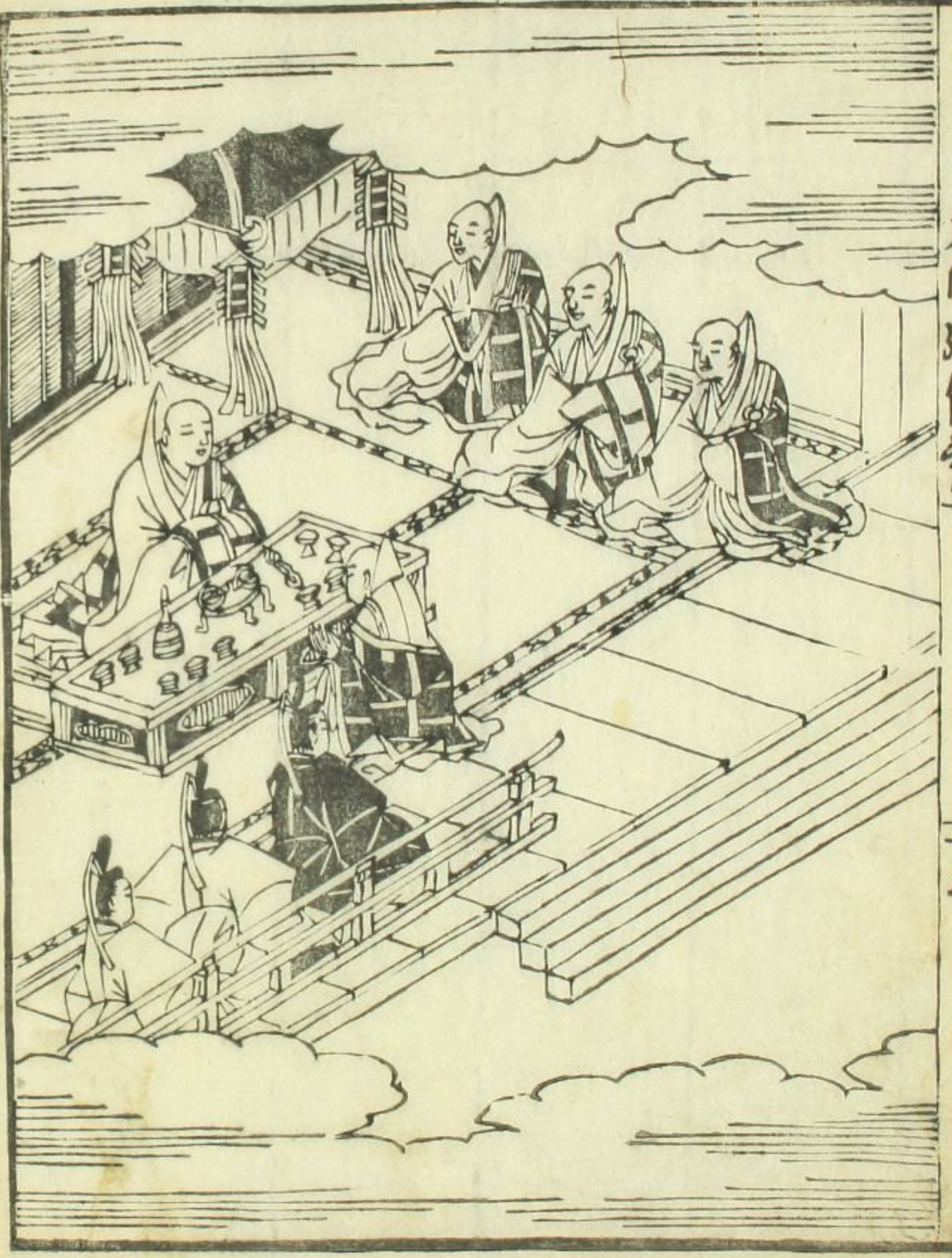
大和の佛家

三



大正新編

大正新編
 三三
 らねそりあり。されハ江仁セヨリあり。そりめも地
 とひらうせぬと同一を於年六月三日
 ハのそりやうく。首尾トやうぢやうけり。其
 と金割巻もくろづけたる。おんりやうと
 とげそりまふ。檜化乃志わとらなり。毛
 ぶがし。ゆとあり。事也



大納言正三位

十一

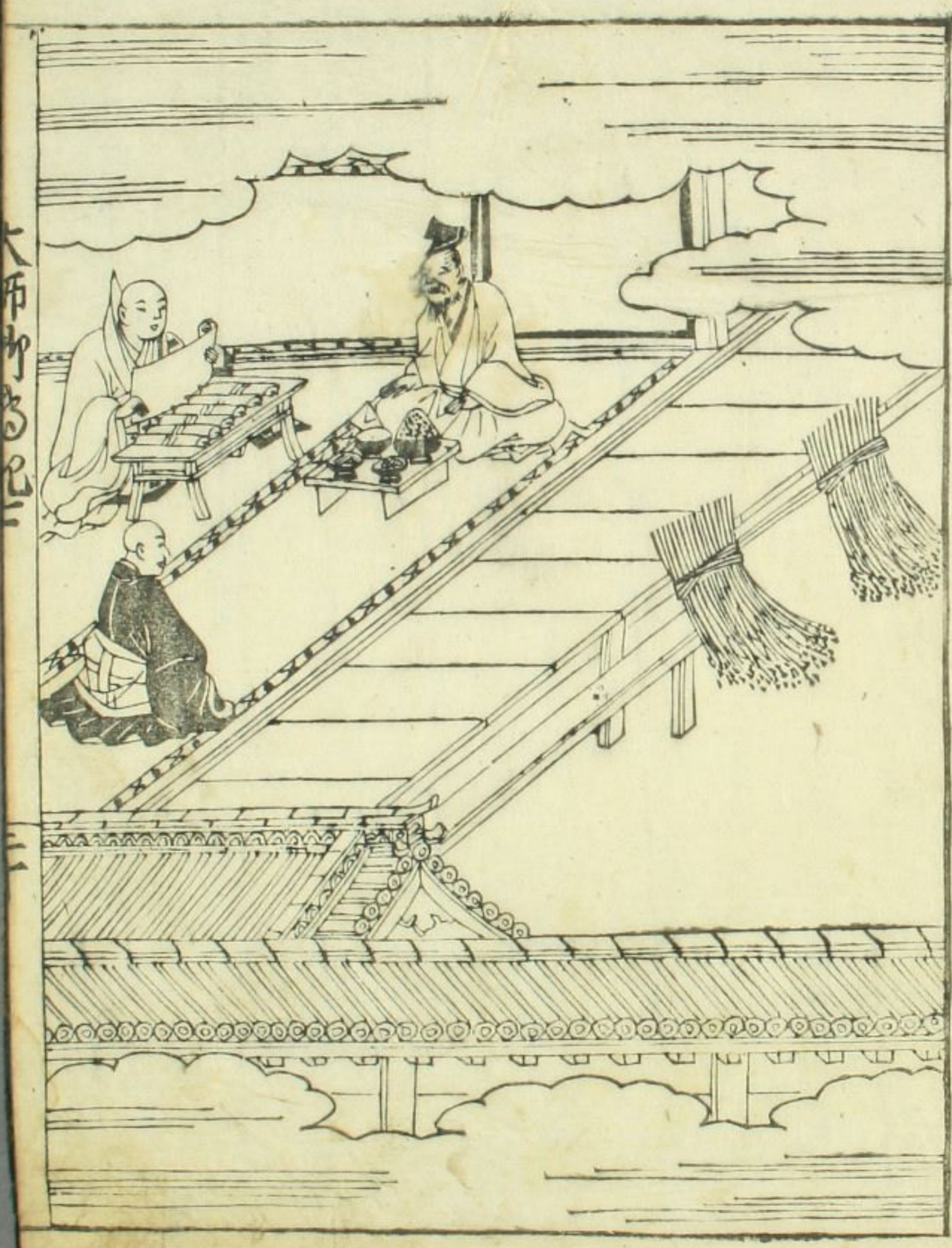
行方... 十... 月十九日... 大納言正三位...
 仍者... 大将... 友原朝臣... 勅使...
 ... 東... 海... たまりけり...
 ... 桓武天皇... 勅...
 ... 儀... の... 建... 始...
 ... 大師... たまり... 儀...
 ... 大... 八... 傳...
 ... 乃... 部... の... 經...
 ... 文... 此... あり...
 ... 見... 乃... 灌... 頂...

大納言正三位

十一

大佛の御堂
を海より先づく一の観音堂に
一、時或は山つありとよそ船と
あよめありあふむ相と人よ
後でてさういふありんぞと
船のいともあわれやこ八
つありとも海わいゆりゆ
と尸も也と尸もされきま
ひまらほよわいもさうい
といろ先ゆらまりづはと
たまふにれさあよろこび
とて。けしとくこふうをん

伊の浦たきとつよありて又
うらを人よあひさうふた
あひむく果山りてんさそ
いけちよおくははをいろ
れいむくいふれふんをら
一。ま程の魏乃ふの大に
堂福子福富があは家富一
けつらあよれも海のりお
あひ。曾希一のの船和東
案二階とへりぢらう。ま



大和物語

びべし。あゝむとありはらりあんと。秘念を
 う。物縁して又けり。あゝむとありはらりあんと。
 里。弘仁十四年。よ。あゝむとありはらりあんと。
 くば。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 ころ。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 二階。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 せ。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 て。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 と。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。
 と。あゝむとありはらりあんと。あゝむとありはらりあんと。

わくもわくもわくもなる。まやうららるるを
くれきふはあつひきよすもたすひとて我
佛がら法がらとちぢぢたましくとてとぢぢとぢぢや
一法とてなすもを海とていふとて教とていふ
てまつまられけり。海その山はすあつらふとの
いあり山とれあり。二階たかハ今乃いまは海うみ也
はうらうらとたはあつひのふ教がらハを海乃
くまあつらうらたまひ一教あり。されはを
海乃のねきふあつひとていふはあひをさ
せ一日とていふ。あつひのふあつひの目たを
たればきふとていふ。あつひとていふとてあつひの

あつひのあひをさまんとていふはあつひの
とあつひのあつひとていふ。されどいふとあつひ
とていふとていふとていふ。これより指す
大の神とていふとていふ。あつひのふ
せつなりあつひの起すまんとていふ



